

まちづくり会議・意見交換報告（令和5年6月6日）

（グループ①産業）

令和5年度第1回池田町まちづくり会議 5. 総合計画推進管理における意見交換

<出席者>

十勝池田町農業協同組合	十河 学
池田町農民同盟	神谷 隆昭
池田町商工会女性部	米倉 千加子
池田町観光協会	古後 仁裕
「ワインのまち」池田町移住促進協議会	平井 昌行
一般公募委員	小林 政明

池田町：担当管理職（佐野産業振興課長、南研究所長）
事務局（林企画財政課主幹、村瀬企画統計係長）

事務局の司会進行により意見交換開始。

<答申書附帯意見について>

事務局）まずは担当課長から説明を。

職員 A）答申書附帯意見にある、産業・事業者間の連携について、今の進捗状況は、農業を中心とした異種産業との連携を模索して、話し合いに着手したところである。枠組みを作っていくイメージ。有利な条件の融資、国や道、町の補助等を分かりやすくメニュー化して進めていくところ。

職員 B）ブドウ酒研究所では事業者間の連携として、一社ワイン城と緊密に連携しているのを始め、商工会や観光協会と物販を進めている。人を呼び込むような、これからのワイン城の発展につながるような意見をいただきたい。

事務局）役場としては、まだ着手したばかりということであるが、今日は各団体の代表に来ていただいているので、順番に意見をお願いしたい。

委員 B）安井町長の公約にもあったが、道の駅を核として、何かできないか。早期に道の駅ができたらいいと思っている。それに付随してオートキャンプ場を併設したり、ワインと肉を楽しんでいただくという仕掛けも必要ではないか。沖田コンクリートの敷地の利活用で言えば、まずは避難所を整備して、その後に道の駅を建てたいとのことだが、広い敷地なので、オートキャンプ場だとか、そういう施設を隣接したらいいと考えてはいるものの、そうするとそこで観光客が止まってしまう。池田町に流れてこない。

事務局）どういう整備になるかはまだ分からないが、例えばワイン城と連携する仕組みづくりを考えながらの開発がポイントになってくる。

委員 A）大通商店街は商店街と言えない状況。商工業は後継者不足が深刻で、このままいくと閉店する店が増えてしまう。そこをなんとかしなければならぬと考えている。それには、行政としては補助金などもあると思う。移住と絡めて言うと、フェアの際、後継者不足の情報を発信してはどうか。このままだと、せっかくワインの町と言いながら、純粋な酒屋さんがいなくなってしまう。もちろん商工会も動かなければならないが、行政も補助金なり、後継者を見つけるサポートがあればと思う。

事務局) 若い世代は、働く場所がないと移住につながらない。そのあたりが非常に大事かと思う。商工会の中で、事業承継の需要はあるのか。

委員 A) 事業承継の需要調査はしていないが、集まって話しをした際には、この業種のここは後継者がいないけれどどうするんだ、という話題は出る。事業承継の相手は移住者に限らず、町民でももちろん良い。事業承継に繋がられるよう、手を上げやすい環境を作ってもらえたらと思う。そこには補助金も一つの手段と思う。ラーメン屋さんを継ぎませんか、というようなアプローチなど。

事務局) 人口減に歯止めはかからない。土地などあっても、やはり生涯やっていける仕事がないと、若い世代の移住につながらない。

委員 D) 難しい問題と思っている。附帯意見で特産品と書いてあるが、何のことを言っているのか。商工でもそうだが農村でも後継者が少なくなっている。

事務局) 何をもって特産品と言えるようになるかは発信が重要と思う。ワインや肉、農産物ではツクネイモやネバリスター、町中に目を向ければ 100 年の伝統を誇るバナナ饅頭があるが、なかなか上手く外部に発信しきれていないところがある。事業者間同士でもっと密に連携しながら、もっと外部に発信していくことが大事と思う。

委員 D) 昔から言われているが、農産物をただ売るのではなく、付加価値をつけて売ることによって利益を上げるということを、農協が中心になってやっていると聞くものの、あまり池田町では見られない気がする。そのような取組は必要と思うが、やろうとすれば施設が必要になり、国の補助が必須である。町単独でやるには限度があり、大きな事業は出来ない。

委員 C) 農業においても後継者不足、非常に今は農業行政が厳しい状況、今の状況では子に農業を継いでとは言えない、逼迫した状況である。酪農・畜産も危機的状況で、辞めていく人も、町内だけでなく非常に多い状況。それに対してどのような対策を講じればいいのかと考えたとき、農業が本当に困っているということが農業者以外にあまり内容が伝わっていない感じがしている。国の政策になると我々ではどうにもならない部分になるが、食料自給率を上げるなど、言うには言うが、補助の面では明るい兆しが見えない状況。

さきほど農産物の 6 次化の話もあったが、農協としてはどうしても財政面で難しい面もあると思う。農家戸数の減少は止まらないので、外部から新規就農者を獲得していく事業ができれば。

事務局) 資材高騰、農作業の人手不足など、状況的に相当厳しいというのは聞いている。付加価値をつけて売れば良いという言葉はよく聞くが、そうは言っても非常に難しい。どうやったらヒットするのか。商品自体も重要だが、それ以上にどう発信していくかが重要と思う。農業だけでなく商工業の方とも一緒になって発信していく仕組みが必要と考えている。

委員 F) 自分のところでも、後継者不足の問題がつけつけられている状態である。従業員を募集しても中々集まらない。今は高校生も少なくなり、アルバイトしてくれる高校生もなかなか見つからず、お店が忙しくても回すことができない。これからのことを考えると、本当に不安な状況である。大きな話しになってしまうが、やはり企業が増えると家族で入ってくると思う。客を迎えるには、迎える側も人がいないと。ゆくゆくは高齢化に伴い店を閉めざるを得なく、それが不安。味を引き継いで、事業を継承してくれるという事例もあると思うが。

事務局) たとえ販路があっても、作り手がないと途絶えてしまう。

委員 F) 今は何年もやっていないが、他の町で物産展を開催して発信するのも大事だと思う。

委員 E) 物産協会がなくなり、業種各々での物販になってしまっている。特産品を抱き合わせで物販できれば、こういう町なんだとピーアールもできる。そこに町のリーフレットやカタログとかがあれば更に効果も上がってくる。

委員 E) 事業者は非常に厳しい状況。物価は上がるも人件費は上げなければならない。かといって、値上げすると客が離れる。世の中の情勢も明るい兆しは見えない中だが、足を止めていると沈みかけていく。半歩でも前に進めないといけない時代。そして事業者の魅力がないと働き手も来ない。町にお願いしたいのは、事業者に力を付けさせて欲しい。補助金などの手段はいろいろあると思うが、そこにしっかりと活力を付けて欲しい。もちろん事業者も一生懸命やらないといけない。魅力がある町というのは人だと思ふ。人が下を向いて歩いているところには誰も来たがらない。苦しい中でも前を向いて顔を上げて歩いている人がいるところに、事業者の働き手は来ると思ふ。移住施策も大事だと思ふが、池田町に昔から住んでいて、表面だけではない魅力を解っている人たちに、力をつけていただきたいと思ふ。皆さん、どんどん疲弊していつている。大事なものは人、そしてつながりであり、魅力がある人が作るものは全てが魅力があると思ふ。作り手の情熱などを発信していくことが必要。そのためには行政がしっかりしないと。町民も行政に丸投げではなく、一緒にやっていきたい気持ちはある。

<ワイン祭りについて>

委員 D) 今年はワイン祭りは開催する予定なのか。

委員 E) ここ何年も開催できていなく、今年はやらなくてはいけない年であると認識している。これまでと同様のやり方は出来ない中で、今年は失敗ができる。来年になると失敗できない。勇気をもってやるべきである。

委員 D) 開催について、報道発表はもうしているのか。

委員 E) まだしていない。

委員 D) もう6月だが、周知の期間は大丈夫なのか。

委員 E) 大丈夫である。チケットが売れ出すのは、だいたい8月になってからである。ただ、問合せに対しては、開催する方向で検討を進めていると回答している。

職員 A) 実行体制の枠組み作りもこれからであり、内容についても、たたき台の案はあるが具体的な詰めはこれからである。

<営業継続支援について>

職員 B) 町内事業者の閉店が相次いでいる。事前に閉店予定という情報もなく、もし知っていれば何か営業支援に関し、出来なかったのかと思ふ。何か方策とれないかと思ふ。

事務局) 後継者不足の問題に関しては、単に補助金を出せばいいという問題ではない。

委員 E) 何年か前に飲食店に後継ぎを募集した町があると記憶しているが、多くの場合は長続きしていない。やはり町自体に魅力がないと。この町の特性は、イベントがあれば人が出るが、何も無いときは閑散としている。だからといって、みんな出ようよとはならない。そういうのに直面すると、営業継続にしても事業承継にしても、やる気が失せてしまう。そのあたりのサポートが

必要。魅力があると客は来てくれる。

事務局) 町中に住んでいるお年寄り、スーパーがないので不便。コミバスは走らせているが、時間がどうしてもかかる。そのあたりの課題を、地域公共交通計画を練り直し、民間の力を活用しながら改善していきたい。活気を取り戻すには、まずは家から出ていかないと。商店街だけでなく、交通手段もサポートしなければ。

委員 F) 人の流れは重要。商店街に来て何もなければ、観光客はワイン城に行って終わりになってしまう。街中に寄ってもらえるようになればと思うが。

委員 E) コミバスは、スーパーと病院で降車する人が多いように思う。メイン通りへの流れを一つでも二つでもつくるのが大事と思う。見えない経済を回さなければならないというのが、非常に難しい。点が線にならないと、単体だとどうしてもすぐにとん挫してしまう。ワイン祭りのような長く続けられている教科書があるので、そういうことにしっかりと目を向けていけば、そんなに悲観することもないとも思う。みんな同じ方向に舵をきることが大事。

事務局) 何にお金をかけるにも、点から線に、そして面になるような形にしていくことをしっかり考えていかないといけないと思っている。そうしないと、生きたお金をかけたことにならないと思っている。

事務局) 閉店した空き店舗の所有者には、例えばカフェなどをやりたいという人を受け入れる希望はあるのか。

委員 A) 池田町の特徴として、店と住居がくっついているのがネックである。店と住居が別だとやりやすいと思う。先ほど、人の流れの話があっただが、せっかく人が下りてきてもシャッター街だったら残念なので、何とかしないといけないと思う。

委員 E) コロナの影響もあるが、飲食店も閉店が相次いでいる。なかなか事前にわからない現状があるので、情報の共有によって、閉店前に話しができればいいと私も思う。連携ができれば、横に広がりを見せるのが大事。

委員 A) 商だけでなく工にも目を配ってほしい。池田町には重機を取扱う業者がない。災害が起きたら所在地の町が優先になる。以前、町内の運送会社が辞めることになった際も何かなかったのかなと思う。

事務局) 以前、町内で重機を取扱う事業者が同時に辞めたことがある。そのときは除雪を依頼できる事業者がなくなり、町としても本当に困った。

委員 E) そういうことも横のつながり、情報の共有が大事。そういう実情が共有できれば、例えば事業者間連携で一緒にやろうというようなこともあるかもしれない。昔はそういった助け合いばかりであった。今は他人行儀になり、そのような助け合いが難しくなっている。みんなで助け合いができる環境をもう一度構築することが、この町には必要と感じる。情報の入手は行政が一番早いと思うので、出来る出来ないは二の次として、まずは情報を回すことを意識してもらいたい。

事務局) 行政が立ち入るのはコンプライアンスの問題もあり、なかなかざっくばらんな話しができない。

委員 E) 事業者が閉店する際に、周りにはあまりそのようなことは言わない。噂話で終わることもある。インフラなど生活基盤が揺らぐようなことは、コンプライアンスの問題とかではない。情報共有できないと、厳しい状況になっていく。今のこの状況がそうだと思う。

事務局) 業者間の連携には、やはり異業種での対話が大事なのかと思う。

委員 E) 昔は異業種交流などあったと思うが、今はなかなかできていない。

事務局) 昔は各業種の事業者数も多かったのですが、その中で回すことも出来ていた。だんだんと数が減り、今は事業者が1社という状況の業種もある。今はその中だけでは身動きが取れなくなってきている。

委員 E) 町の人口が減ると、雇用率が下がる。人口と雇用は比例する。人口が減ると、町民の働き手が減るのは現実である。人口が8,000人規模のときは、町民だけで雇用が安定していた。人口が5,000人規模になると、町民の働き手を確保することができなくなる。

委員 E) 今ある地元の事業者を育てて欲しい。事業者が成長することで魅力的な職場になり、働き手も増えてくる。移住定住と言っても、働く場所、働きたい場所がなければ来ない。だからといって、新規の企業を誘致するには何らかの補助金を出さなければならないが、それは自分たちの税金である。地元の事業者の成長に税金を使って欲しいのに、外から入ってきた企業に持っていかれる。そうではなく、頑張っている地元の事業者に税金を使い、しっかり育ててほしい。地元企業を育てて、足りないところは外から補うという考え方が大切だと思う。